

一 般 質 問 通 告 事 項

(平成30年第3回白岡市議会定例会)

第1通告者 13番 石原富子 議員

1 市内循環バス等の復活について

超高齢社会を迎え、公共交通のあり方を再度見直すべきと考える。

また、「こもれびの森」の完成を間近に控え、生涯学習センターに行く手段としても、市内循環バスの復活を望む声が高まっている。

- (1) 現在の「のりあい交通」の利用状況はどうか。
- (2) 市民からの声は、どのようなものがあるのか。
- (3) 改善すべき点はないのか。
- (4) 免許証返納を促進するためにも、循環バスの復活を望む声が高いが、執行部の考えを問う。

2 救急医療情報キットの更なる活用について

ひとり暮らしの高齢者が病気やけがで救急搬送されたときに役に立つ、服用薬等の重要な医療情報を収納できるキット(命のバトン)の運用が開始されてから5年経過しているが、現在の活用状況は十分とは言えない。超高齢社会を迎え、更なる活用を検討することが重要と考える。

- (1) 現在までの利用状況は。
- (2) 独居の高齢者だけでなく、65歳以上の全世帯に配布し、利用を定着させてはどうか。
- (3) 命のバトンにかかりつけ医や病歴などをバーコード等でデータ化してはどうか。
- (4) お出かけキーホルダー「みま～も」を採用してはどうか。

3 増え続ける空き家の利活用について

市内でも多くの空き家が目立つようになってきた。今後、更に増えると予想される空き家の利活用を検討すべきと考える。

- (1) 空き家の現状はどうか。

(2) 特に火災の恐れや歩行者などに危険な空き家はないか。市としての対応を伺う。

(3) 利活用の一つとして、転入者へ中古住宅として紹介する等の方策はどのように考えるか。

(4) 有効活用の策についての取組はどうか。

第2通告者 14番 大倉秀夫 議員

1 公用車等へドライブレコーダーの設置を

交通安全や防犯対策のために、市役所公用車や社会福祉協議会、シルバー人材センター等の自動車にドライブレコーダーの取り付けはどうか。

2 高齢者の交通安全対策について

交通ルール認識不足の高齢者に対する安全対策の計画はないか。

第3通告者 3番 関口昌男 議員

1 人事院勧告と市役所に働く労働者の給与改善について

(1) 今年的人事院勧告について。

(2) 白岡市の職員の給与改定について。

(3) 非常勤職員の待遇改善について。

(4) 全ての市職員の給与改定について。(最賃制改正)

(5) 会計年度任用職員制度の導入について。

2 教育を巡る諸課題について

(1) 教職員の労働条件の改善を。

(2) 学校における働き方改革の緊急対策について。

(3) 学校給食の無料化を。

(4) 学校施設の冷房化について。

(5) 学校施設全部の冷房化の取組を。

3 白岡市のイメージアップ作戦について

(1) 白岡市の住みよさランキングについて。

(2) 白岡の鳥の選定を。

第4通告者 8番 遠藤 誠 議員

1 下校の見守りはどのくらい行われているのか

- (1) 地域で差は大きくあるのか。
 - (2) 地元の認識は必ずしもはかばかしくないのではないのか。
 - (3) 市長の言う子育て世代の住みたい、住み続けたい重要で分かりやすい指標ではないのか。
- 2 「自助」「自治」の再確認
- (1) 市の人事評価の中に、地元貢献という項目は不可能なのか。
 - (2) ささえあいミーティング、協議体の立ち上げの土台「自治」や「自助」は一体十分なのか。
- 3 農業者を商工会に
- 農業者が商工会で「売ること」のノウハウなどを学べるのではないのか。
- 4 白岡中学校周辺の開発
- (1) 大型商業施設でなければいけないのか。完成時に市の人口は。小売り形態は今のままなのか。
 - (2) 県とはどんなやり取りをしているのか。
 - (3) 市が計画段階で経費を持つことには疑問が残るが。
 - (4) グランドデザインの中の白岡中学校周辺区域があるのでは。
- 5 農業、農地への市の取組
- (1) 優良農地を保全して誰が耕作するのか。これが唯一の農政なのか。
 - (2) 農地保全の主体は市民。もはやプロデュースなきところに農業はないのでは。

第5 通告者

11番 鬼久保 二郎 議員

- 1 自然災害時の給水対応は
- (1) 大規模災害時に、水道管の破損などで水道水の供給ができなくなったときに備え、市ではどう対応するのか。
 - (2) 災害時に飲料水として使用できる耐震性貯水槽を、県は整備を促しているが、我が市の状況は。
 - (3) 今後、設置計画や他に替わる代案があるか。
- 2 市内小・中学校の現状について

- (1) 市の人口は増加しているが、小学生や中学生は今後どのように推移していくのか。
- (2) 各中学校の部活の数と、現状では、生徒の希望にはどう対応しているか。
- (3) 現在の4校の中学校の中で、生徒数に菁莪中学校は大変差があるが、将来を考えて、学区変更の考えはないか。

第6通告者

16番 菱 沼 あゆ美 議員

1 防災の更なる取組を

- (1) 避難を促すための取組について伺う。
 - ア ハザードマップの活用について。
 - イ 浸水被害が予想されている地域に、想定浸水深標識を設置し、住民の意識啓発をしては。
 - ウ 家庭や個人のマイ・タイムラインの導入について。
- (2) 河川や用水沿いに建つ住宅の避難経路が、川沿いの道の場合は、氾濫や増水すると川と道路の境目が分からなくなることもある。転落防止などを防ぐ柵やフェンスの設置が必要ではないか。市内を調査し、設置を進めてはどうか。
- (3) 崩落の懸念があるブロック塀などへの取組は。
- (4) 備蓄品について。液体ミルクはどうか。
- (5) 市の防災会議の女性委員の割合が、県内においても非常に低い。男女共同参画の推進の観点からも、早急に改善を図るべきではないか。

2 健康寿命を延伸するフレイル予防の推進について

介護予防事業の現状と課題を伺う。

加齢に伴う虚弱状態をフレイルと名付け、その予防に「食事」「運動」「社会参加」の3つを柱とした取組が全国でも広がっている。このフレイル予防の推進について伺う。

3 SDGs を踏まえたESDについて

国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえ、日本が定めたESD（持続可能な開発のための教育）がある。

次期学習指導要領の前文に、「持続可能な社会の創り手」を育成することが教育の目標であると明記された。

(1) 市の学校教育において「持続可能な社会の創り手」の育成についてどのように捉え、取り組んでいくのか。また、教育振興基本計画についてはどうか。

(2) ESDを教育委員会として推進をしていくべきではないか。

第7通告者

5番 松本栄一 議員

1 新元号への対応について

(1) 平成への改元時は、どのように準備（システム変更、予算等）し、どのように進めたのか。

(2) 今回の改元は、2019年5月1日からであるが、準備状況（システム変更数、帳票類の把握、予算等）はいかがか。

(3) 改元は、今後もあり得るが、西暦を主として使用する考えはあるか。（記入用紙、帳票類等）

2 所有者不明土地への対応について

(1) 所有者不明土地の固定資産税は、現在どのくらいあるのか。（面積、金額、滞納割合）

(2) 各自治体の事業において障害が発生していると聞くが、当市の都市計画道路、土地区画整理事業において該当する土地はあるか。

(3) 政府の対策が明らかになってきており、先般の通常国会にて「所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法」が成立し、6月13日に公布された。今後の市の事業にも活用できると思うが、研究していく考えはあるか。

第8通告者

15番 江原浩之 議員

1 オータムフェス開催について

(1) オータムフェスティバル開催に向けての状況は。

(2) 今後の展開については。

2 聖火リレーの招致について

(1) 東京2020オリンピック聖火リレーの概要と、県内ルート選定は、どのように行われるのか。

- (2) 聖火リレーの招致について、当市はどのような取組を行っているのか。

第9 通告者

17番 高木隆三 議員

1 高齢者の多剤服用及び残薬削減で、医療費削減を

- (1) 高齢者の多剤服用は、厚生労働省も事態を重視し、多剤服用となりがちな高齢者に副作用が出るのを防ぐため、医師や薬剤師らに向け、薬の適正化を求めるガイドラインをまとめた。市内の各薬局において、当市の現状について伺う。
- (2) 「高齢者の服薬に関する実態調査」を実施し、どのような不安を抱えているのかなど、アンケートを実施する考えはないか。
- (3) 横須賀市薬剤師会では、回収バック「ヨコスカネイビーバック」を作成し、薬局での無料配布を実施した。その効果は、274万円分の残薬が再利用された。当市においても、薬剤師会と協議し、システムづくりに取り組む考えはないか。

2 猛暑、豪雨など異常気象対策について

- (1) 記録的な豪雨に猛暑に気象庁は、連日の猛暑を「一つの災害」と位置づけ、命を守るよう緊急の呼びかけを行った。
- 当市での猛暑対策と市民への周知はどのようにしたのか。また、市内において、熱中症と思われる救急搬送者は何人いたか。
- (2) 地球温暖化の影響で、今後も異常気象による高温が予想される。社会的弱者への対策を、今から考えておく必要があるのではないか。考えを伺う。
- (3) 温暖化で降雨量が増えれば、一級河川で洪水が起きる可能性も増加する。当市での河川整備の現状と課題点は。
- (4) 環境省が公表する、「暑さ指数」が最も高い「危険」と「厳重警戒」は、全ての生活活動で、熱中症になる危険性があるレベルである。市内小・中学校では、この夏の暑さ対策について伺う。
- (5) 白岡市や教育委員会のきめ細かい情報提供で、学校の取組をサポートすべきではないか。また、基本方針の策定の考えはないか。
- (6) 生活保護扶助事業の生活扶助費に光熱水費等とあるが、夏場の

エアコン購入及び冬場の暖房器購入についての対応を伺う。

第10 通告者 6番 細井 公 議員

1 商店街等の夏祭りにおける学生・生徒の熱中症対策について

全国的に酷暑のため、学校内での活動について、一部中止の対策がとられたと聞いている。白岡市内では、高校、中学校のブラスバンド部が38度近い酷暑の炎天下の屋外ステージで演奏したと聞いている。夏祭りの本来の主旨を実現できたのかどうか伺う。

2 市内公園の除草等の対策について

除草作業はリスクが大きく、雑草の成長速度によっては、美観保持できる期間が短くなるなど効果も小さいと思われる。他市町では数回の除草費用を考慮し、効果ある成果を考えている。白岡市の除草方法等の今後について伺う。

第11 通告者 4番 斎藤 信治 議員

1 中学校の部活動について

教員の長時間労働の大きな原因が部活動である。部活動の負担軽減を進めるためにどうすればよいか。

また、部活動を熱心に行っている生徒たちが、楽しく続けられるために伺う。

- (1) 外部指導者の現状に関して。
- (2) 外部指導者の思いは。
- (3) 「部活動指導員」を置けないか。
- (4) 生徒の立場から見た部活動対策について、部活動ガイドラインの利用状況は。
- (5) 部活動ガイドラインの夏休みでの利用状況は。
- (6) 部活動減少問題。
- (7) 学校単位ではなく、クラブ制の提案。

2 困難を抱える子どもたちが、楽しくなるために

子どもたちが、日中の多くの時間を過ごす学校で、楽しく有意義に過ごすことができるようになるために、SSW（スクールソーシャルワーカー）について伺う。

- (1) S S Wの勤務実績は。
- (2) S S Wが活躍できる体制を。

第12通告者

2番 渡辺 聡一郎 議員

1 シティプロモーションの効果検証について

シティプロモーションの短期計画期間が終了した。今後はより多くの手法で白岡のプロモーションとブランド構築を進めていく必要がある。

- (1) これまでのシティプロモーションの効果検証と課題、今後の展開を伺う。
- (2) 今後は数値目標を定めた具体性のある効果検証が必要ではないか。K P Iやアウトカム指標の必要性について伺う。
- (3) 市外に向けて効果的なプロモーションをどのように図っていくか。子育て世代の移住促進に向けたP R方法について伺う。
- (4) フィルムコミッションとメディアを活かしたイメージ戦略について伺う。

2 地域創造・地方創生の今後の展開について

地方創生の取組が始まり4年になる。これまでの取組を振り返り、国の動向を踏まえた上で、より具体的な政策が必要と考える。

- (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗を伺う。どのような体制で戦略のチェックや効果検証が行われているか。(P D C Aは回されているのか。)改善点や今後の展開について伺う。
- (2) 地方創生に関する国の支援策について考えを伺う。(地方創生関連交付金、人材・情報支援等の活用について)
- (3) 白岡市へのU・Iターンと定住化を促す具体的な施策について伺う。

第13通告者

9番 黒須 大一郎 議員

1 選書基準等は、明確化されているのか

いよいよ、生涯学習施設「こもれびの森」が10月に開館する。本施設・事業が更なる市の発展に寄与し、指標としている民間企業の自治体ランキングが上がることを期待している。については、本施

設の主力である図書館にどんな知（本等）を選ぶのか、どう集めるのか。時代に沿ったものか、次世代に通じるものか以下を問う。

(1) コミックや映像作品・記録（アニメ作品・音楽作品も含む）等の選書及び収集基準等は、明確化されているのか。また、相互貸借は、県外だけでなく、国内外問わず取り寄せることが可能なのか。

※ 基準がない状態及び古い収集方針で、開館に向けて集めているのか。

(2) 今は、インターネットやブックオフなどにより、安く世界中から購入できる環境だが、効率よく収集できる方針なのか。21世紀の流通形態の変化に対応したものか。

2 行財政改革推進大綱について

(1) 平成28年から平成32年の5年間を計画期間とする大綱が、どう機能しているか。まずは、その進捗管理としての行政評価制度を問う。

ア 公平公正に第三者のチェックを受けているといえるのか。

イ その評価は、わかり易く透明性の高い、効率的なものか。

ウ 予算編成にどのように活かされているのか、または、活かすのか。

(2) 行政サービスの向上と経費削減を図る民間委託の推進で、今年から始めた学童保育の委託は、経費削減とはならず増加だが、今後の民間委託の検討計画はどうなっているのか。

(3) 勤務成績評価を反映した給与制度といえるのか。

※ 人事評価制度導入前と予算配分が変わらないのは。画一的運用なのでは。

(4) 利用者の半分が市外である受益者負担の適正化は。

(5) 自治体情報システムのクラウド化を単独で平成36年度に導入予定とのことだが、どのくらいかかるのか。他との共同は。

(6) 2040年「将来の自治体」その姿は、「スマート自治体」を目指す。準備は。

※ 次世代への課題は残さず、近未来を見据えた万全の土台づくりを。相談業務等にAIの活用とふるさと納税や時間外申請業務にRPAの活用。お悔やみ総合窓口の導入は。

3 白岡中学校周辺の土地利用について

- (1) 事業認可まで、市負担が約4億円とされる中、どのようなところが手を挙げてどこと結ぶのか。事業パートナー参加申込者をその提案書とともに事前公表すべき。
- (2) パートナーとの協定締結前に、協定内容は公表するのか。予定する協定の概要を伺う。
- (3) 本地域は、見沼代用水土地改良区の改良区費が賦課され、転用する場合、除斥決済金がかかる。他地区の賦課金等に影響しないか。
- (4) 黒沼用水は、平成5年度より冬期試験通水している。開発による生態系や環境への影響が懸念されるが、見解は。

第14通告者

1番 井上日出巳 議員

1 保育・幼児教育の無償化について

2017年12月8日に閣議決定した「新しい政策パッケージ」によると、保育・幼児教育の無償化については、2019年4月から一部をスタートし、2020年4月から全面的に実施するとあったが、2018年6月15日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）」によると、2019年4月から一部をスタートし、10月から全面的に実施するとなっている。

- (1) いつからどのような形で始まるのか。認可外、所得制限、必要な条件等どのような内容か。
- (2) 無償化による入所希望の増加に対する施設と人材の確保は。
- (3) 無償化に伴い、市の負担が増えると思うが、試算は。

2 勤労者体育センターの暑さ対策について

市で唯一の市民体育館ともいべき勤労者体育センターは、風通しが悪く、夏場は小・中学校の体育館と比べて著しく暑く、利用者に不評である。健康管理の面からも早急に改善が求められると思う

が。

- (1) 利用状況は。
- (2) 利用者の声は届いているか。
- (3) 改善策は。